

やる気に満ちて頼もしい(笑) 大学生、100人がやってくる！ 「アメニティー大学」が開校します。

アメニティーフォーラムでは、これからの社会を担う全国の学生に向け、「アメニティー大学」を開設します。全国の大学生・専門学生100名が学部や専門を越えて集まり、学び、出会い、次のステップへと踏み出す、そんな3日間の特別プログラムです。初日の「2月8日」には、そもそも「障害」とは何か、ホームレス支援の現在、看取りの場のあり方などをテーマに、この国の共生社会の未来を引っ張る講師陣が講義を行います。現場に根差した分厚い福祉実践から、メディアや行政関係者の視点も踏まえ、これからの制度づくりにも必要な視点を学びます。二日目「2月9日」では、アメニティーフォーラムで開催されているシンポジウム、アール・ブリュット展覧会、バリアフリー映画祭、表現ワークショップ、などを自由に参加し、「福祉」という領域の持つ奥深さと良い意味での捉えどころのなさを体感します。そして、最終日「2月10日」には、これらの体験を学生同士が自らの言葉に置き換え、交換しあう「振り返りワークショップ」を実施します。学長は全国各地で「表現」を通じたコミュニティデザイン、居場所づくりに取り組む文化活動家のアサダワタル。また「はじめてのアメニティーで、どこから見たらいいかわからない…」という学生には、副学長の御代田太一による学生支援課ブースも準備します。福祉現場への就職を考えている方にとっては、全国の先進的且つ熱心な法人に出会えるチャンスとしてご活用下さい。

「アメニティー大学ゼミ」講師陣	(講演テーマ)
奥田知志氏(NPO法人抱撲代表)	ホームレス支援
野澤和弘氏(毎日新聞社論説委員)	福祉で働くことの魅力
玉木幸則(NHK Eテレ「バリバラ」コメンテーター)	障害者にとって迷惑な社会
保坂健二郎(東京国立近代美術館主任研究員)	障害と美術
かしわ哲(ミュージシャン)	障害とロック
金森暢子(特別養護老人ホームふくら看護師)	豊かな看取りの世界
中谷満(相愛大学大学院教授/打楽器奏者)	滋賀と音楽と福祉のダイナミズム

大学運営共同責任者:田中正博、大原裕介 学長:アサダワタル 副学長:御代田太一

【学生向け】アメニティー大学への参加学生を募集します！
学年・学部・専攻は問いません。またとない学びと出会いの場です！福祉に関心を持つ全国の仲間たちと、濃すぎる3日間を過ごしましょう。初日、2日目のセッション終了後23時～は全国の福祉団体との交流会があります。「福祉って、おもしろい」。心からそう感じたい皆さんの参加を待っています！
申込先:shien.net.japan@gmail.com ※メールには、氏名と所属を書いてください。
申込期限:1月18日(金) 参加費・宿泊費:無料！ 宿泊先:びわ湖大津プリンスホテル

B3 行動障害のメカニズムを解明する ～実用編～

「一生懸命やっているのに支援が上手くいかず行き詰っている」「研修は受けたけど現場に活かさない」そんな悩めるあなたに強度行動障害テキスト(全国ネット版)の編集者で行動分析の専門家:肥後祥治先生のナビゲートで、実際の現場事例をもとに行動の理由をたどり適切な支援を導き出していきます。

事例提供者:松井宏昭(青葉会) 仁田坂和夫(ひだまりの里きよせ)
ナビゲーター:肥後祥治(鹿児島大学)

D2 「障害のある人の食」の研究、スタート！

「障害のある人の食」に関する研究は日本でも、世界でも、これまであまり取り組まれてきませんでした。世界に先駆けこの課題に取り組もうと、今、福祉、医療、栄養、文化など、多様な分野で活躍する専門家がタッグを組みました。国もその重要性に着目し、研究を後押ししています。

今回は、研究成果の一部をご報告させていただくとともに、一流の料理人をお招きして、料理のプロは福祉の食をどのように見ているのか、お話しいただきます。そして、会場にいるみなさまと一緒に「障害のある人の食」のこれからと、場作りについて一緒に語り、考えていきたいと思います。

D3 精神科病院と特養の看取りから 導き出されること

障害福祉分野において、高齢障害者の支援について考えられるようになって久しいのはご存知の通りです。その中において、向かい合うことになる看取りという最終支援。生きてきた過程が人それぞれなように、人生の仕舞い方、最期を迎える場所も人それぞれです。精神科病院においても看取りが行われていることはご存知でしたか？今回は、取り組みが先行している特養での実践に加えて、精神科病院での実践からも学びを得ることで、そこに通底することを考えたいと思います。また、看取りの実践を進める時に不可欠なのが、協力してくれる医師の存在です。医師は看取りをどう考えているのか、そして医師不足と言われる中、このことに一緒に取り組んでいこうとする医師は増える可能性があるのかということについても現状を知ろうと思います。今回も、話を聞きその存在に触れるだけでも元気になれる看護師、医師が勢ぞろいです！

「共生社会フォーラム」が開催されます！～糸賀一雄記念財団からのご案内～

共生社会フォーラムin滋賀をアメニティーフォーラム23と連携して開催します。学生・新任職員コースと近畿・東海・北陸ブロックの語り部育成コース(要推薦)の研修を含め300人規模を予定しています。事業の詳細並びに参加申込みは、財団HP(<http://www.itogazaidan.jp/>)をご覧ください。公益財団法人糸賀一雄記念財団は、障害をはじめ生きづらさのある人たちが、個人として尊重され幸せを感じながら、地域の皆さんと共に暮らすことができる社会づくりの一助となるよう、日本の福祉の礎を築いた先達による実践と思想の普及啓発に努めてまいりました。しかし、私たち福祉関係者が震撼する津久井やまゆり園事件が発生し、「生きる意味のない命がある」「障害者は社会に不幸をもたらすだけ」という考えに同調する声もあるなか、厚生労働省により共生社会の基本理念を再確認し普及啓発する事業が予算化

E1 当事者研究と専門知

私たちのささやかな日常は、ほのかな期待に色づけられている。今日と同じくらいには明日も健康で、友人と同じくらいには幸せで、たまにはおいしいものを食べ、美しいものを観ることを期待しているものだ。しかし生きていけば、こうした期待を打ち砕くような現実と直面することは、決して珍しいことではない。期待が打ち砕かれるや否や、時は止まり、ぐるぐるとした反芻が始まる。なぜ、私だけうまくいかないのか、などの「問い」の形で。置きから発せられるこうした問いは、それに答えを与えてくれるような「知」を求める。

私たちの置きにヒントを与えてくれる知とは、制度的に蓄積・更新・共有・継承される、整備された専門地だけを指すのではない。多くの場合、数えきれないほどの皆さんの、無名の先人たちが、専門地の制度の外で、自分と同じような道を通って来ている。たくさんの先行く仲間が歩いてきた、星の数ほどある物語のなかには、私の物語とも重なる共通項がある。その先人の足跡は、いわば整備されていない「獣道」として、後から来た私たちの足元を照らしてくれている。

当事者研究は、こうした獣道の総体を、蓄積・更新・共有・継承すること、そして、そのための方法を探索することを目指している。こうした獣道を背景に置いて、当事者の生にとって意味のある形で、舗装道路のように整備された専門知とともに再配置することが不可欠な課題と考えられる。 —熊谷晋一郎—

『当事者研究と専門知 生き延びるための知の再配置』(臨床心理学増刊第10号 P2～6から抜粋引用)

E2 そろそろAIの話をしよう！ ～変わる福祉サービスの現場～

福祉・介護人材の不足が叫ばれる中、AIをはじめとした様々なテクノロジーの活用が始まっています。ただ、「うちの事業所はまだ手書きなのに、まさかAIなんて」「そもそも、AIってなに？」というのが現場のリアルな感覚でしょう。それでも着実に、新しい技術は生まれ、福祉現場とのコラボレーションが始まっています。そこで今回は、素朴な疑問にも答え、人材不足解消のための業務効率化という視点だけでなく、日々のケアや支援に新しい風を吹かせるような最新のテクノロジーやアイデアを紹介していただきます。

AIやロボットについて考えることで、生身の身体を生きる人間の本質も見えてくるでしょう。まだ誰も見たことがない、けれど確実にやってくるケアの現場の未来を想像する、なかなか楽しいお話です。

F4 LGBTトークセッション あなたらしく、自分らしく

LGBT層は日本の人口の割合で約8%。13人に1人がLGBTであり、左利きやAB型の人とほぼ同じ割合であることを皆さまはご存知でしょうか。私たちの周りに当たり前存在しているLGBT、あるいはセクシャルマイノリティと呼ばれる人々やその家族。多様な性や家族のかたちが受け入れられつつある今日の社会においても、彼らの生活はさまざまな場面で課題に直面しています。このトークセッションでは、LGBT当事者でありLGBTを支援する活動を行なっている方々などをお迎えし、行政の取り組みや課題について話し合うとともに、多様な個性を尊重し合い、誰もが暮らしやすい社会の実現に向けた意見交換を行います。

基調報告:自分のことを赤裸々に
今井出雲(東京大学文学部4年生)

シンポジウム:石川大我(東京都豊島区議) 石坂わたる(東京都中野区議)
藤井ひろみ(神戸市看護大学准教授) 渡邊芳樹(元駐スウェーデン日本国特命全權大使)
コーディネーター:今井出雲(東京大学文学部)

G4 厚生労働科学研究「意思決定支援研修 プログラム」モデル研修

2017年3月に、厚生労働省から「障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン」が公表され、その普及のための研修プログラムの作成が、厚生労働科学研究費補助金により進められています。アメニティーフォーラムでは、ここ数年、「水島先生ゼミナール」と題して意思決定支援の研修会を開いてきましたが、今年は、厚労科研で進められている意思決定支援研修プログラムのモデル研修を行い、参加者のみなさんに評価をお願いし、研修プログラムのさらなる改善を行う機会とさせていただきます。映画に例えるならば、「試写会」のような位置づけです。

アメニティーフォーラムは日曜日のお昼までですが、このモデル研修は1日研修のため、16時まで行います。全国の誰よりも早く、今後普及が図られる「意思決定支援研修」を体験してみませんか。

優れたパフォーマンスが全国から集結！

障害者の優れた文化芸術を国内外に発信する総合推進事業
主催:文化庁、障害者の文化芸術国際交流事業実行委員会

8日(金)

13:30 【オープニングセッション】 海を越えた障害者による舞台芸術 ——フランス・ナントでの事例を振り返る

基調報告:渡邊芳樹(元駐スウェーデン日本国特命全權大使、元社会保険庁長官)
パネリスト(カクシオン):丸山英明(滋賀県健康医療福祉部 障害福祉課長)
石川公浩(島根県健康福祉部 障がい福祉課 療育支援グループ リーダー)
谷俊輔(鳥取県福祉保健部 ささあひ福祉局障がい福祉課 課長)
小松誠一(長崎県障害福祉課 総括課長補佐)
進行:渡邊芳樹

15:00 【ダンス】/滋賀 湖南ダンスワークショップ

フランス・ナントで高い評価を受けた、障害者によるダンスパフォーマンス
北村成美(演出・振り付け)
演奏:小室等、坂田明、谷川賢作、竹田裕美子 ほか



湖南ダンスワークショップ

16:00 【即興音楽】/兵庫 音遊びの会

知的な障害のある人を含むアーティスト集団
日本各地、イギリスなど遠征公演も多数開催



音遊びの会

17:00 【トークセッション】 日本のアール・ブリュットを海外に見る ～瑞・仏・尼で見つけた、考えたあれこれ～

瀧澤聡(日本・スウェーデン外交関係員150周年記念展覧会「アール・ブリュット—日本とスウェーデン」日本側キュレーター)
小林瑞恵(「バリ東京文化タンデム2018アール・ブリュット ジャポネII」日本側キュレーター)
北澤潤(美術家/インドネシア「ときどき」展パートナーアーティスト)
進行:田端一恵(「社福」グロー企画事業部)

18:00 【ダンス+トーク】/大阪、滋賀 森田かずよ+北村成美

義足の女優&ダンサーとして活動する森田かずよと湖南ダンスカンパニーのディレクターの北村成美によるデュオ。アフタートーク。



左 森田かずよ 右 北村成美

9日(土)

10:00 【研究フォーラム】 障害者による文化芸術活動の推進について

杉浦久弘(文化庁審議官)
内山博之(厚生労働省 社会・援護局保健福祉部企画課長)
由布和嘉子(滋賀県副知事)
新久保厚子(2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた障害者の文化芸術活動を推進する全国ネットワーク会長)

11:00 【研究フォーラム】 バリアフリー演劇 ～研究の過程と成果～

廣川麻子(特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)
大河内直之(東京大学先端技術研究センター-特任研究員、特定非営利活動法人バリアフリー映画研究会理事長)
浅野佳成(東京演劇集団 風 芸術監督)
柴崎美納(東京演劇集団 風 俳優)
進行:山上徹二郎(バリアフリー演劇研究会 座長)

13:30 【ダンス】/滋賀 湖南ダンスカンパニー

ジャポネニスム2018パリ公演のステージを先行発表
ダンス:後村英治、太田泰斗、北村成美、
田中徹、苗村世輝雄、菅正和、
松尾慎一郎
演奏:谷川賢作(ピアノ)



湖南ダンスカンパニー

14:00 【ナイトコンサートプレトーク】 小室等+福島智 光と音の無い世界から音楽が生まれる

ナイトコンサートに先駆けて、福島が創作した新曲の誕生に迫る

15:00 【伝統芸能】/島根

石見神楽・いわみ福祉会芸術クラブ
2017年フランス・ナントで大きな称賛を受けたいわみ福祉会芸術クラブ。障害のある人らによる、島根県西部地域に伝わる郷土芸能「岩見神楽」を演舞。



いわみ福祉会芸術クラブ

16:00 【ダンス】/宮城

みやぎダンス
「わたしとわたしのイエイエ」
年齢・性別・障害の有無などすべて不問
音楽フェスティバルなどで公演を行うみやぎダンスによるパフォーマンス



みやぎダンス

17:00 【クローキング・セッション】 障害のある人を中心としたパフォーマンスグループを マネジメントすること

登壇者:各団体のディレクター、ナビゲーター
※プログラム、登壇者が変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

アール・ブリュット ネットワーク フォーラム2019 主催:滋賀県

10日(日)

本フォーラムでは、アール・ブリュットネットワークのこれまで6年間の振り返りと今後の展望について青柳会長と三日月知事にお話しいただくほか、アートの商品化をテーマにした事例発表やアメリカ・ミシガン州で開催されたアール・ブリュット展について出展作家を交えたトークなど、3つのセッションを実施します。

9:30 【セッション1】 アール・ブリュットネットワークの“これまで”と“これから”

青柳正規(アール・ブリュットネットワーク会長、前文化庁長官) 三日月大造(滋賀県知事) ほか

10:40 【セッション2】 アートマーケットについて

山下完和(やまなみ工房(滋賀県)) 宮本恵美(みめ福祉会 工房集(埼玉県))

12:30 【セッション3】 ミシガン州でのアール・ブリュット展について

古久保憲満(出展作家) 古沢ゆりあ(滋賀県立近代美術館学芸員)
聞き手:小林瑞恵(「バリ東京文化タンデム2018アール・ブリュットジャポネII」日本側キュレーター)